

意見公募手続実施結果

- 1 題名 水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」
- 2 案の公表日 令和5年3月10日（意見提出期限：令和5年4月10日）
- 3 市民等からの意見数

計 16人 61件

(1) 郵 送	1人	19件
(2) F A X	0人	0件
(3) メ ー ル	14人	41件
(4) 直接提出	1人	1件

4 提出意見及び提出意見を考慮した結果

第1 都市づくりの基本理念 (全体)

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>公共交通機関については、弱い部分・偏っている部分が多いのではないかと。県都として他とは違う改革をすることで、市民の生活向上だけでなく、移住も狙えると考えます。以下の方策を検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸駅を中心とした数駅間（例：内原～水戸～勝田）で頻発運転を行うことで、自家用車から鉄道へ利用を促進するとともに、渋滞の緩和を図る。 ・偕楽園駅の常設化による偕楽園・千波湖へのアクセス性の向上により、市内外からの集客の増加を図る。 ・路線バスについて、幹線運行を15分程度の間隔で行うとともに、バスターミナルを設置し、拠点となる商店街を設置することにより、利便性の向上、免許を持たない人も移住しやすい環境づくりを進める。 ・行政機関の駅チカへの集約を行う。 	<p>水戸駅を中心とした鉄道の頻発運転については、JR東日本において乗務員が不足している中、昨今のダイヤ見直しで運行本数が削減されていることから、難しいものであります。バス路線の再編による水戸駅へのアクセス性の向上やデジタル技術等の活用による利便性の向上等に取り組み、鉄道を含む公共交通の利用促進を図ってまいります。</p> <p>偕楽園・千波湖周辺については、本市のシンボル空間であり、アクセス性を高めることにより更なる魅力づくりにつながるものと考えております。御意見をいただきました偕楽園駅の常設化は、その手法の1つであると考えており、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p> <p>御意見いただきました路線バスの一定間隔での運行、バスターミナルの設置及び商業地と公共交通を連結していくことにつきましては、整理すべき課題も多くありますが、今後、路線バスの再編を進める中でバス事業者等と検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
	行政機関については、市民センターなど、地域に立地することにより、市民ニーズに応えることができるものなど、様々な性質も持つものがあることから、各地区の状況や地域住民の声を踏まえながら、設置、運営してまいります。

第1 都市づくりの基本理念

（水戸の未来をリードする「こどもたち」を育むまちをつくる）

意見等の概要	市の考え方（対応）
令和弘道館宣言、学びのまち水戸の推進をすべきである。 水戸には学びを重んじる風土が深く根付いており、後の弘道館、現在の教育環境・生涯学習の充実へと繋がっている。教育環境としては、大学が2校、高校が16校あり、質の高い教育が提供されているとともに、小中一貫教育の取り組みや児童健全育成事業など教育施策が積極的に実施されている。生涯学習として、みと好文カレッジなどで幅広い分野の講座が提供されており、水戸芸術館、水戸市民会館、茨城県立近代美術館等の文化施設も数多く、充実している。水戸市が、こうした稀有な「教育・学びのまち」であることをより積極的にアピールし、移住を促すポイントの一つとすることができると考える。	水戸市第6次総合計画ーみと魁プランーにおいて、水戸スタイルの教育を打ち出し、こどもたち一人一人の確かな学びと夢を実現する教育に取り組んでおります。御意見のとおり、教育は本市の強みでありますので、今後も水戸ならではの特色ある学校教育を推進するとともに、ニーズに応じた講座の提供等を通じて、幅広い世代の生涯学習の機会の充実努めてまいります。
「快適な学習環境の整備」について、1学級あたりの生徒数が多すぎると感じる。1クラス20人程度にして、水戸市はきめ細かな教育、指導をしているとアピールできれば子育て世帯の流入も期待できると考える。	学級編制につきましては、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」に基づき、令和5年度は、小学校第1学年から第4学年について、35人以下の学級となっております。また、小学校第5学年から第6学年及び中学校全学年につきましても、茨城県の「少人数教育充実プラン推進事業」を活用して、おおむね35人以下の学級となっており、非常勤講師等の配置により、複数の教員で学習指導や生活指導などきめ細かな対応を行うとともに、引き続き、こども一人一人の良さや可能性を伸ばしていけるよう、より質の高い学校教育を目指してまいります。

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>教育機関が集中しているという利点について、茨城大学という歴史ある国立大学があるので、分散しているキャンパスを水戸に集結させるなどできれば、更に活気あふれる街になると考える。</p>	<p>本市では、茨城大学と連携協力を締結し、互いの人的・物的資源を活用しながら、地域発展と人材育成を図っているところです。茨城大学をはじめとする教育機関が集積している特徴を生かし、活力あるみとづくりを推進してまいります。</p>
<p>「快適な学習環境の整備」について、改修工事、コロナ禍、プールの老朽化、熱中症などの心配から体を動かす機会が極端に減っている。体育の時間を確保する、休み時間は毎日外で遊べるようにするなど当たり前の教育をすべきであり、市立学校であっても、格差が生まれている。また、校舎の改修工事している学校も、工事していない学校と同じように教育が受けられるようにすべきである。教育への予算をもっと増やし、「予算がないから出来ない」ことを理由にすべきでない。</p>	<p>校舎の改修工事に伴い、仮設校舎での学校生活や校庭面積の減少など、児童、保護者の皆様には御不便をお掛けしております。校舎の改修等につきましては、こどもたちの安全で快適な学習環境を確保するために必要な事業でありますので、御理解をお願いいたします。御意見をいただきましたように、新型コロナウイルス感染症等による学校生活への影響は大きいものであり、そのような中でも安全性、快適性の確保はもとより、こどもをしっかりと育てる学校づくりに努めてまいります。</p>
<p>「こども一人一人の個性と能力を伸ばすきめ細かな教育の推進」について、こどもは環境に影響を受けやすいことから、学習に対する意欲など、同じ目的意識を集めた学校又はクラスを作るべきである。</p>	<p>本市では、水戸スタイルの教育として、個に応じた学習指導やデジタル技術を活用した個別最適な学びに取り組んでおります。また、4校の小規模特認校を設置し、理科・環境教育や学校体育・保健安全教育をはじめ、学校ごとに特色ある教育を推進しております。引き続き、より良い環境及びより質の高い学校教育となるよう、今後、事業運営の中で検討してまいります。</p>
<p>「デジタルを活用した教育、自然体験学習、芸術文化教育の充実」、「こども一人一人の個性と能力を伸ばすきめ細かな教育の推進」、「快適な学習環境の整備」、「教育機関が集積し、こどもの教育に力を入れているまちとしての魅力発信」について、はなまる学習会を活用し、教育改革をすべきである。最新の教育の考え方、在り方を取り入れるために、常に勉強し、こどもたちの特性を理解して教育する人からのアドバイスが必要である。</p>	<p>本市では、中核市として独自に研修を実施し、教師の資質向上に努めております。また、学校教育における外部人材の活用につきましては、国において、調査・研究が進められているところであります。本市においては、小・中学校にAETを配置するほか、高校、大学と連携したカリキュラムにより、児童生徒のみならず教員も専門的な知識・技能等にふれる機会の充実を図っております。引き続き、こどもたちにより質の高い教育を提供できるよう、カリキュラムの研究や教職員の資質能力の向上に努めてまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>こどもが安心して大きな声を出してのびのびと遊べる環境を作るべきである。</p> <p>下校後にこどもたちが遊ぶ際に、近隣から苦情が学校に入り、学校から注意を受けることがある。こどもが安心して、のびのび遊べる場所がなくなっている。</p>	<p>総合計画の都市づくりの基本理念において、水戸の未来をリードするこどもたちをまち全体で育むことを掲げており、放課後学級や放課後子ども教室を開設するとともに、一部の市民センターにおいて、こどもスペースを設置するなど、放課後のこどもの居場所づくりに取り組んでおります。御意見をいただいた件につきましては、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>小学校には多くの問題があり、現場でこども目線に立って物事を考えることができ、こどものことだけを第一優先で考える人がいれば、保護者も相談しやすく学校をより良くしていくことが出来るのではないかと考える。</p>	<p>本市では、児童生徒、保護者、教員の相談先となるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを各校に派遣するとともに、中学校に心の相談員を配置し、それぞれの不安や困難に寄り添った対応をしております。また、本市独自の研修を実施し、教員の資質能力の向上に努めております。引き続き、こどもたちの目線に立って、こどもたちにとって学校がより良い環境となるよう、各種施策を推進してまいります。</p>
<p>「教育機関が集積し、こどもの教育に力を入れているまちとしての魅力発信」について、高校までは集積しているが、卒業後の進学の実績及びキャパシティが足りないことから、主に東京方面へ流出し、そのまま定着していることを踏まえ、以下の高等教育機関を誘致すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸芸術館と連携した芸術系大学の水戸キャンパス ・市内就職率向上のための専門学校（県内の豊富な食材を背景とした調理・製菓専門学校、海外観光客対応、ビジネス人材育成の語学専門学校、市内ホテルへの人材供給のためのホテル観光コース関連学校、小規模事業者向けDX人材供給のための情報処理専門学校など） 	<p>少子高齢化、人口減少が進む中で、経済を発展させていくためには、若い世代の定住促進が重要なことと捉えております。御意見いただきました具体的な施策や事業につきましては、今後の事業運営の中で検討してまいります。</p>

第1 都市づくりの基本理念

(市民の豊かな暮らしを実現できる「経済発展」するまちをつくる)

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>統一感のある「まちのデザイン」をすべきである。特徴的な公共施設や多くの参加者が集まるイベントがあるが、全体としてみると統一感があるとは言いがたく、「一つのキーワード」で水戸市を表現できるような「まちのデザイン」がない。市民や国内外からの来訪者が水戸を想起できる、統一感のある「まちのデザイン」を意識的に創り出していくべきである。</p>	<p>本市では、都市景観重点地区や風致地区の指定等により、地区の特徴を生かした景観形成の誘導に努めているところであります。御意見をいただきました件につきましては、市民や来訪者が水戸ならではの空間に魅力を感じていただけるよう、今後の事業運営の中で検討してまいります。</p>
<p>水戸で副業・兼業・起業したい人に対する行政支援をすべきである。副業・兼業に関わる関係人口の創出、拡大に取り組むべきである。地域住民との交流により、新たな地域資源を生み出し、水戸市を発展させるだけでなく、結果的に水戸市への定住を促す可能性がある。テレワークの活用により、副業・兼業が行いやすい環境づくりやPR活動を行うことが重要であり、起業を目指す人に対しても、経営相談など、ソフト面での支援も行うことで、水戸市の発展・定住を促すことができるとともに、経済情勢に柔軟に対応できる環境づくりや、行政が、公的に起業家支援を行うNPO法人を支援する仕組みづくりが重要であると考えます。</p>	<p>本市では、創業支援拠点であるコワーキングスペース水戸ワグテイルにおいて、起業を目指す方等を対象に、創業セミナーの開催や専門員による相談窓口を設置しております。このほか、資金面での支援といたしましても、創業時の借入れに対する利子補給や創業後の販売促進等に係る経費の補助を行っております。今後も、社会情勢やニーズに対応した創業支援の充実を図ってまいります。</p> <p>テレワーク環境の活用に係る副業・兼業が行いやすい環境づくりやPR活動につきましては、具体的な施策や事業とあわせ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>商店街の空き家の持ち主と新規事業希望者のマッチングをすべきである。市がそれぞれの情報を取得し、マッチング機能を果たすべきである。「水戸市空き家バンク登録物件媒介に関する協定」を締結したこともあり、マッチング件数は増加していくことが予想され、シャッター街と化した商店街の再生が期待できる。借り主が、勝手な改造、そして廃業で契約期間を満たさないこと等が無いよう、持ち主を補償する仕組みや、持ち主が安心して貸しやすくなる制度の整備も、あわせて必要である。</p>	<p>空き店舗と出店希望者のマッチングを推進するため、まちづくり会社や水戸商工会議所が中心となり、個性的で魅力的な空き店舗を紹介するツアーを実施しているほか、商工会議所において、空き店舗情報を提供するサイト「水戸まちなか空き店舗ナビ」が運営されております。これらの事業のPRに努めるとともに、対象エリアにおいて、空き店舗を活用し出店した場合、店舗改装費の一部を支援するなど、空き店舗対策に取り組んでおります。御意見をいただいた件につきましては、具体的な施策や事業とあわせ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>水戸市民と市外の人, 市外の人と市外の人 の出会いをコーディネートする拠点を整備 すべきである。新たに水戸市に居住を 始めた人々は、新しいアイデアやユニ ークな経験を持っているが、それを水 戸で生かすためのきっかけを掴めず にいる。こうした人々の出会いの場 となりえるのがコワーキングス ペースであるが、水戸市内のコワー キングスペースは、水戸市に居住す る事業者の利用が少ない、人と人 とをつなぐ役割のコーディネーター がない等の理由により、出会いの場 としては十分に機能していない。コ ワーキングスペースを出会いの場と して活用することで、水戸発の新し いビジネスが生まれる契機となり、 街の活力につながると考える。</p>	<p>人と人がつながり、新しいビジネスが 生まれやすい環境をつくっていくこと は、重要なものと捉えており、本市 における創業支援の拠点であるコワ ーキングスペース水戸ワグテイルに おいて、創業を目指す方や関心の 高い学生等の若い世代を中心とし たコミュニティ機能を強化するなど、 具体的な施策や事業とあわせ、今 後、基本計画の策定を進める中で 検討してまいります。</p>
<p>焼き畑型住宅開発からリノベーション 型の住宅開発へ転換すべきである。 少子高齢化に伴い、焼き畑型住宅開 発は、中心地の空き家・空き地問題 を生むだけでなく、新たなインフラ 整備・維持管理費用、さらには災害 対策費用の増加で今後、財政を圧迫 することが予想される。将来を見越 して、焼き畑型住宅開発から脱却し 、中古住宅やリフォームの優遇策 によるリノベーション型住宅開発 へ転換すべきである。リノベシ ョン型住宅を利用することで、新 旧世代が入り混じり、これらの問題 を解決するだけでなく、ユニークな 特徴を有する住宅地へと転成し、 選ばれる地域として成長することが 期待できると考える。</p>	<p>都市空間整備構想において、水戸らし い地域拠点ネットワーク型コンパクト シティとして、都市核を基軸とした 持続可能な都市構造を目指すものと しております。また、まちなかに住 宅を取得する子育て世帯への支援 や住宅リフォームの支援、水戸市 空き家バンクの運営により既存住 宅ストックの活用推進に取り組んで おります。御意見をいただいた件 につきましては、具体的な施策や 事業とあわせ、今後、基本計画の 策定を進める中で検討してまい ります。</p>
<p>30年後を見据えた駅周辺マンション 開発を誘導すべきである。駅周辺 では複数のマンション開発が進め られており、同エリアでの人口増加 は今後も見込まれる。その一方で、 マンションは居住者以外が敷地内 へアクセスすることが難しく、垂 直型のゲートッド・コミュニティ （要塞都市）が生み出され、周辺 エリアとの隔絶が発生してしまう 可能性がある。市は低層階への商 業施設の設置を促進するなどの取 組を進めている</p>	<p>本市では、立地適正化計画におい て、水戸駅周辺を都市機能誘導区 域の中心拠点として位置付け、居 住のみならず、商業、福祉等の都 市機能の誘導を図っております。 御意見をいただいた件につきましては 、今後、事業運営の中で検討して まいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>が、今後も居住者以外にも利用可能な施設の設置を推進すべきである。また、比較的高額なマンション価格により、一定以上の経済レベルの市民しか居住できないエリアが発生してしまうと考えられる。都市機能を維持するためには、多様な市民が居住することが重要であり、特に医療従事者などのエッセンシャルワーカーのための住宅提供も検討すべきである。海外での、アフォーダブル住宅の取組が参考になるとと思われる。</p>	
<p>回遊性を意識した水戸駅～千波湖東岸エリアのまちづくりをすべきである。徒歩の場合、途中に気軽に立ち寄れるショップや飲食店、休憩スペースなどがあまりなく、魅力的な街並みとは言えないのが現状である。水戸駅から桜川河岸を通過して千波湖に向かうまでのルートに道案内の設置を進めるとともに、周辺地域も魅力的な街並み、例えば景観を意識した設計・開発を進めることが求められる。さらに、徒歩での玄関口となる千波湖東岸エリア（千波大橋側）には、迎え入れる雰囲気づくりが整備されていないことから、カフェ兼コワーキングスペースを設置することで、同エリアの魅力を高めることが可能になると考えられる。リモートワーカーを対象としたヒアリング調査では、市内には千波湖周辺のような景観の良い場所に、朝から夜まで利用可能なカフェ等がないことが不満として挙げられたことから、潜在的なニーズは高いと思われる。中長期的には、水戸駅から千波湖、偕楽園、大工町～银杏坂エリアを徒歩で移動する、回遊性を意識したまちづくりが求められる。</p>	<p>偕楽園・千波湖周辺については、本市のシンボル空間であり、都市空間整備構想において、魅力発信交流拠点の候補として位置付けております。御意見をいただいた件につきましては、具体的な施策や事業とあわせ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>ふるさと納税の返礼品として行政サービスを提供すべきである。二拠点生活をする人も増加傾向にあるが、市外に住民登録をしている二拠点生活者は、水戸市で十分な行政サービスを受けることができない。二拠点生活者をターゲットにしたふるさと納税</p>	<p>本市では、移住・定住を促進するに当たり、二地域居住をはじめとする多様なライフスタイルに応じて暮らすことができる環境づくりを推進しているところであります。ふるさと納税については、平成 20 年度に「水戸黄門ふるさと寄附金」を創設し、平成 27 年</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>返礼品としての行政サービス（例：一時保育サービス）を提供すれば、二拠点生活者の増加も見込むことができる。</p>	<p>度からは、市外の寄附者へ謝礼品として特産品等を贈る、特産品ギフト・イメージアップ事業を積極的に実施しております。</p> <p>引き続き、市外からの寄附者にとって魅力的な謝礼品の充実や新規開拓に努めてまいります。</p>
<p>「プロスポーツチームとの連携」について、水戸ホーリーホックや茨城ロボッツなどの試合日程や結果を水戸駅、赤塚駅前や市民会館などにデジタルサイネージを設置し、適時発信すべきである。</p>	<p>本市では、水戸ホーリーホックや茨城ロボッツのホームタウンとして、ホームページ等において情報発信を行っております。御意見をいただきました件につきましては、プロスポーツを通じた地域の活性化に向け、今後の事業運営の中で検討してまいります。</p>
<p>「観光資源の魅力向上による誘客促進」について、水戸駅、赤塚駅前や市民会館などにデジタルサイネージを設置し、市内の美術館、博物館の企画展などの情報をリアルタイムで広報すべきである。</p>	<p>水戸市の魅力をデジタルサイネージにより効果的に発信することは、最新の情報を即時的に伝達することができ、市民はもとより、観光客等の満足度を高めるほか、にぎわい交流人口、まちなか交流人口の増加にもつながる重要なものと考えております。そのため、いただいた御意見の趣旨を踏まえ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>「観光資源の魅力向上による誘客促進」について、東武館や水府流といったユニークなコンテンツにスポットを当てるため、全国中学剣道大会や古流泳法をテーマとしたマンガを募集し、出版、ネット配信を行い、国内外へアピールすべきである。</p>	<p>様々な手法で水戸ならではの資源を国内外へ発信することは、インバウンド観光をはじめ、訪れたいくなるまちづくりを実現するために重要なものと捉えております。水戸には、北辰一刀流や新田宮流抜刀術、水府流水術や田谷の棒術など、古くから伝わる武道・武術が数多くあり、これらの武道・武術を紹介する動画を YouTube をはじめとした動画サイト等で公開しております。また、水戸の梅や水府提灯を活用した体験とともに、水戸東武館において、剣道の体験を通して心技体を鍛える武道の精神を学ぶことができるプログラムを用意し、国内だけでなく海外の方からも反響をいただくことがあります。引き続き、これらの資源の魅力を発信していくとともに、御意見の趣旨を踏まえつつ、効果的な発信手法について、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>観光資源の魅力向上による誘客促進, 地元産業の育成の観点で, インバウンド観光客をターゲットとした水戸市の魅力向上策を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昼も夜も楽しめる日本庭園リゾート」をコンセプトにリゾートホテルを誘致し, 東京に来るインバウンド観光客が, 水戸に1泊したくなるリゾートブランドを構築する。 ・水戸駅北口から中央郵便局までの商店街400mを「水戸レトロ街」としてリノベーションする。水戸城跡, 弘道館含めて通年でライトアップし, 昼も夜も楽しめる散策ルートにする。 ・日本庭園リゾートエリアと水戸レトロエリアを結ぶモビリティ周遊コースとして整備し, 電動キックボード, 自転車, 電動バスなど, インバウンド観光客が好む多様な移動手段を準備する。 	<p>インバウンド観光は, 地域経済の活性化に大きく寄与するものであり, インバウンドの誘客促進に向けて, 観光資源の魅力向上を図ることは, 重要であると考えております。</p> <p>そのため, いただいた御意見の趣旨を踏まえ, 今後, 基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

第1 都市づくりの基本理念

(誰もが生き生きと暮らせる「安心」できるまちをつくる)

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>「行政のデジタル化, まちのデジタル化推進」について, 駅前等にデジタルサイネージを設置し, 市の広報, 緊急情報発信等に利用する。また, 学校に貸出し, デジタル人材の育成を図るべきである。</p>	<p>多くの方が利用する施設等において, デジタルサイネージなどを活用して行政情報を発信することにより, 市民の方へ効果的に情報を届けられるものと考えております。御意見いただきました件につきましては, さまざまな場所に設置されている民間の大型ビジョンやデジタルサイネージの活用も含め, 事業運営の中で検討してまいります。また, デジタル人材の育成については, 現在, 市職員を対象とした研修等の取組を行っておりますが, 広く市民がデジタル人材としての知識や技術を習得できるよう, 今後, 事業運営の中で検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>デジタル技術は加速度的に発展しており、これを市政に活用することは以前にも増して重要になっている。行政のデジタル化、まちのデジタル化について、施策を具現化していくためには個別の計画が必要となるが、「水戸市情報化実施計画」は策定されているのか。DXに関する計画については、PDCAサイクルの循環によって弁証法的にデジタル社会を発展させ、地域の期待に応えられたい。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、現在、急速に進展するデジタル社会への対応が求められており、デジタル化・DXの方針を示す個別の計画として「水戸市デジタルまちづくりビジョン」の策定を進めているところです。「行政のデジタル化」「まちのデジタル化」「デジタル格差対策」を柱として、市民が豊かに生活できる社会の実現に向けた事業を位置付け、適宜見直しを図りながら、推進してまいります。</p>
<p>暮らしをイメージできる情報提供をすべきである。水戸市に移住した人に、より早く水戸での暮らしに馴染んでもらうよう、暮らしをイメージできる情報をよりわかりやすく提供することが必要である。例えば、情報を発信している水戸市公式LINEは、十分に知れ渡っているとは言えず、こうした暮らしに役立つ情報を、短い動画として伝えることで、よりわかりやすい情報提供ができると考える。市役所の待合所や市民センターなどで流すことで、移住者だけでなくまだ利用していない市民にも広めることが可能となる。</p>	<p>本市では移住・定住特設サイト「水戸暮らし」を開設し、施設や制度等を紹介するとともに、移住者の日常の暮らしを紹介するなど、水戸での暮らしをイメージしやすい情報発信に取り組んでおります。また、市公式LINEについては、現在約59,000人の方に登録いただいているところですが、より多くの方に情報を届けられるよう、引き続き転入者や市民の方の登録を推進してまいります。現在も実施している市役所1階のモニターでの行政情報の発信についても、市民の方によりわかりやすい情報を提供できるよう、表現方法などを工夫してまいります。御意見いただきました具体的な施策については、今後、事業運営の中で検討してまいります。</p>
<p>定住者だけでなく二拠点生活者を増やす発想転換をすべきである。二拠点生活者が増えており、二拠点生活者の多くは20代から40代の働き盛りの世代であり、住民票がなくてもさまざまなかたちで街に活力を与えている。こうした二拠点生活者にも、住民票のある市民と同様の行政サービスを提供することで、多くの若い世代を惹きつけ、短期的には街の活性化に、中長期的には定住人口の獲得につながると考える。</p>	<p>移住・定住を促進するに当たっては、二地域居住をはじめとする多様なライフスタイルに応じて暮らすことができる環境づくりを推進しているところであります。御意見いただきました二拠点生活者に対する市民と同様の行政サービスの提供につきましては、整理すべき課題等もありますが、水戸市が選ばれるまちとなるよう、各種施策の充実を図ってまいります。</p>

第2 将来都市像

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>「魁」は「先駆ける」「他者に先んじて敵中に攻め込む」の意味があるので、「子どもを育む、暮らしを楽しむ、未来に躍動する「魁」のまち水戸」の表現は違和感がある。「○○○に先駆けてこども育む」「○○○に先駆けて暮らしを楽しむ」「○○○に先駆けて未来に躍動する」, 「○○○」は何を入れれば良いだろうか。</p>	<p>「魁」は第9代水戸藩主 徳川斉昭公が漢詩の中で、自らの政治改革の姿勢を梅香になぞらえて詠まれ、他のものを先んずる精神として表されたものです。将来都市像は、都市づくりの基本理念を一つのキャッチフレーズとして表すもので、水戸市では先人たちが築き上げた歴史と伝統、豊かな自然を大切にしながら、教育、文化、福祉、医療など、あらゆる分野において魁の精神で挑戦し、先進的な発展をリードするまちを目指すものです。</p>

第3 人口と経済の展望

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>人口の設定について、目標が令和15年度維持となっているが、目標として妥当なのか。現状維持の人口が水戸市として総合計画を立案していく中で適正な人口ということなのか。人口減少してきた要因及び今後、何もしなかった時の人口減少予測、総合計画での施策による人口増加目標等を検討してきたと思うので、詳細を提示されたい。</p>	<p>全国的な人口減少、少子高齢化の流れが続く中、本市では、2020年度の国勢調査において、人口減少に転じ、推計値として、令和15年度には260,870人まで減少することが見込まれました。そのような中においても、安心してこどもを生み育てられる環境づくりや雇用の場の創出等を推進し、若い世代の移住・定住等による人口減少の抑制取り組むことで265,000人規模を維持することとしました。</p>
<p>交流人口について、イベントや魅力的な発信交流拠点等を重点に置いているが、市民の通常の生活の中での交流を増やす施策はどのように考えられているのか。コロナ禍において、通常生活の中での交流機会をどのように増やしていくのかは総合計画とは別に水戸市として早急に対応すべきことではないか。</p>	<p>交流人口については、にぎわい交流人口とまちなか交流人口の2つを定めております。にぎわい交流人口については、魅力発信交流拠点やイベントの来場者を基本に、まちなか交流人口はまちなかの拠点における来場者を基本に設定しています。日頃からの交流については、わんぱーく・みとやいきいき交流センター等における多世代交流やコミュニティ活動の活性化など、各種施策を推進してまいります。</p>

第4 都市空間整備構想

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>偕楽園駅の常設化をすべきである。駅の常設化による交通の交流拡大だけでなく、偕楽園全体の観光拡大、人的交流の活性化を検討すべきである。これからの少子高齢化を考えると今実施しないと、間に合わない。</p>	<p>偕楽園・千波湖周辺については、本市のシンボル空間であり、アクセス性を高めることにより更なる魅力づくりにつながるものと考えております。御意見をいただきました偕楽園駅の常設化は、その手法の1つであると考えており、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>水戸大洗 I C 付近の水田地（東前団地の国道を挟んだ反対側）に工業用の土地を造成してはどうか。常陸那珂港に近く、茨城空港とも高速道で直通しているため、貨物便の増加により港、空港の発展にも一役買うのではないかと。将来のため、大規模に行うべきである。道路の接続は国道 51 号の他 245 号側にも設けるとともに、それに合わせて、常澄駅前に宅地開発もしくは高層集合住宅ができればなお良いと考える。</p> <p>コンパクトシティについて、常澄駅周辺は含まれていないが、駅周辺を中心に機能を集積させる考えに則れば、決してコンパクトの方針から外れた考えではないと考える。何より、苦境にあえぐ大洗鹿島線の生き残りのためにも検討すべきである。</p>	<p>企業誘致、産業強化については、都市空間整備構想において地域産業系拠点の機能強化を位置付け、企業の集積の促進や新たな企業誘致の用地確保策を推進することとしています。本市の持続的な発展に欠かせない重要な取り組みであることから、その具体的な施策や事業については、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p> <p>なお、御意見をいただいた具体の区域につきましては、優良農地の保全と有効活用を図る区域等となっており、企業誘致の用地としては難しい区域となっておりますことを申し添えいたします。</p>
<p>都市核としての中心市街は、昨今のマンション建設ラッシュに伴う人口の増加傾向にあるものの、周辺地域の開発が拡大の一途をたどっており、ネットワーク型とは言え、コンパクトシティの一般的な概念とは大きく異なっている点について、表現としての違和感がある。</p>	<p>コンパクトシティについては、水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティとして、都市空間整備構想において、都市核中心とした集積型の都市構造を目指すものとしております。さらに、市内に点在する拠点の特性に合わせた都市機能の集積を図るとともに、都市核と拠点間の機能連携やデジタルも含めたネットワーク等により利便性の高い都市環境づくりを進めていくこととしております。コンパクトシティ実現に向けた具体的な施策や事業につきましては、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>都市機能の集積について、車以外に路面電車のようなものが整備されれば、高齢者も都市核へアクセスしやすくなるのではないか。水戸市民会館や京成百貨店、偕楽園は水戸駅から離れていて、高齢者が徒歩で向かうのは大変であり、バスもそこまで便利とは言えないのが現状ではないか。SDGsの観点からも都市核では車の量を制限し、代わりに路面電車網を発達させれば高齢者にも優しいにぎわい溢れる街になると考える。</p>	<p>都市機能の集積については、都市空間整備構想において、公共交通ネットワークや機能連携を強化するとともに、デジタル技術を活用したネットワークづくり等により利便性の高い都市環境づくりを進めることとしております。路面電車の整備については、課題も多く、現在想定しておりません。したがって、安心して移動、外出できる環境の構築に向けては、今後も公共交通の利用促進やバス路線の再編、高齢者の移動支援等の施策を推進してまいります。</p>

第5 施策の大綱

（1 まち全体で「こどもたちを育むみと」）

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>「子育て世帯の経済的負担の軽減」について、申請など必要な補助金や給付金などは、申請に手間がかかるので、負担を軽減する方法として「減税」すべきである。</p>	<p>妊娠・出産、小中学校への入学など、一時的に家計の支出が増大する際に、給付による経済的負担の軽減を図っております。補助金の申請に当たっては、デジタル化を進め、手続の負担軽減に努めるとともに、申請が必要とされない経済的負担の軽減策につきましても、今後検討してまいります。また、減税の対象とする税目としては個人住民税が考えられますが、制度上、その税率は一律となっていることから、特定の世帯に対する負担を軽減する方法として減税を行うことは難しいと考えております。</p>
<p>学校教育における、特別支援教育に力を入れるべきである。現場の教員の努力や、総研の特別支援担当の尽力だけでは、対応しきれない状況であり、市長の主導のもと、体制を強化し、根本的に改革、改善すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育研究所の相談や学校への指導をするための人員が少なすぎる ・通常学級での合理的配慮の理解が乏しい ・通常学級在籍で支援が必要な児童生徒に支援計画・指導計画が作成されていないことがある ・小学校から中学校へ進学時に、支援の情報 	<p>特別支援教育については、児童生徒の教育的ニーズや在籍状況を踏まえ、特別支援教育支援員等の拡充を図ってきたところです。</p> <p>御意見をいただいた件につきましては、今後ますます重要なものになると捉えており、具体的な施策や事業とあわせ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>が引継ぎされないことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員に、支援や学習がお任せになってしまっていることがある ・コーディネーターが機能していない学校がある ・管理職が、特別支援教育に理解がないことも多い ・就学相談の検査が、その後、支援や指導に活用されにくい <p>など、課題が山積みである。</p>	

第5 施策の大綱

（2 多くの人が集い、産業が集積する「活力あるみと」）

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>働く場の創出にあたって、パワハラ・セクハラなどのハラスメントの被害を受けている人たちの支援や相談窓口の強化が必要である。また、いわゆるブラック企業への対策も強化し、安心して働ける環境を整える必要がある。さらに、テレワーク、リモートワークの推進も強化すべきである。</p>	<p>職場におけるハラスメントの相談につきましては、社会保険労務士会との連携により、労働相談会を市役所で開催しているほか、国や県における取組の周知など、就労者の抱える問題に対し、関係機関等と連携しながら対応を行っているところであります。御意見をいただきました、誰もが安心して働ける環境づくりを進めること、テレワークなどの多様な働き方を促進していくことは、重要なものと捉えており、具体的な施策や事業とあわせ、今後、基本計画や個別計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>法人税を標準税率に戻す又は減税すると、税収が上がり、経済発展するまちになる方法として減税を推進すべきである。</p>	<p>本市では、経済発展するまちの実現に向けて、企業誘致の推進に取り組んでおります。本市独自の優遇制度により、用地・建物等の取得に対する補助に加え、固定資産税及び都市計画税について、3年間の免除を実施しております。</p> <p>引き続き、企業誘致の推進に取り組み、財政運営の根幹となる市税の増加を目指してまいります。</p>

第5 施策の大綱

(4 市民と行政で「共に創るみと」)

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>持続可能な行政経営として、予算（人件費を含む）と決算、評価をひもづけした事務事業評価シートを作成し、評価シートを水戸市ホームページ上で公表すべきである。</p>	<p>本市では、全庁を挙げて行財政改革に取り組むこととし、水戸市行財政改革プランに基づき、施策を推進する力強さと、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズに柔軟に対応できるしなやかさを併せ持った「強くしなやかな行財政運営の構築」を進めております。本計画に位置付けた事業は、毎年度、効果検証を行い、その結果を市ホームページで公表しております。また、中核市移行後の令和2年以降は、法の定めにより毎年度実施する包括外部監査制度によって、包括外部監査人が、市の「財務に関する事務の執行」及び「経営に係る事業の管理」について、特定のテーマを決め監査を実施しております。今後も、市民の視点に立った質の高い行政サービスを実現するため、行財政改革を推進してまいります。</p>
<p>地域拠点が分散している中で、「こどもを育む」施策をどのように実践・展開していくのかについて、今後の具体の展開が見えにくいものであることを懸念する。</p> <p>分散された拠点は、それぞれがその性格を異にしており、特色を発揮することが期待されるものと考えている。そこに住む子どもたちをどう育むかについて、地域住民の共通理解が必要であり、その機会をつくる施策を今後の施策に盛り込む道筋を示すべきである。特に、掲げられた方針に基づき、実現に向けた具体の行動の主体となるべく住民等の巻き込みが最も必要であると考えられる。IT等の機能もフル活用した新しい時代の地域コミュニティ形成に向けた施策等の基本方針を示すべきである。</p>	<p>それぞれの地域拠点の機能向上を図り、特に、子どもや親子連れ、若い世代が楽しめる拠点づくりを進めるに当たりましては、基本理念にも掲げている「こども育む」視点も重要であると捉えております。また、子どもたちをまち全体で育むためには、地域住民の共通理解、そして、デジタル技術等を活用するなど、新しい時代に対応した地域コミュニティ形成に向けた取組も必要であると捉えております。御意見いただきました件につきましては、今後、基本計画を策定する中で検討してまいります。</p>

その他（政策提案等）

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>障害者保健福祉手帳のデジタル版ミライロIDにマイナポータル連携をさせてほしい。</p>	<p>障害者手帳につきましては、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳については茨城県が、身体障害者手帳については水戸市が交付しているところです。県が交付する療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳については、マイナポータルとの連携に必要な情報の登録について、県が実施してないため、マイナポータルとの連携はできません。一方、本市が交付する身体障害者手帳に関する情報については、マイナポータルから情報を取得することができ、身体障害者ご本人の操作により、ミライロIDとの連携が可能です。</p>
<p>人口減少、少子高齢化問題に市民を巻き込むには、数値化し、問題点の共有化が必要である。人口減に伴う関連事項を開示し、市民協力を得るとともに、歳入・歳出のバランスを前提とした構想が必要である。</p>	<p>本市の人口については、「水戸市人口ビジョン（第2次）」等において、現状分析、課題の把握とともに、市民と協働しながら、課題解決に向けた施策を展開しているところであります。御意見いただきました件については、具体的な施策や事業と合わせ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>市町村合併により、重複する業務に係る職員・物品等の費用が低減するほか、漁業関連など施策の幅が広がることで、それに伴い増収につなげることができると考える。あわせて、「ふるさと納税品」の税収収入につながると考える。</p>	<p>広域的な行政の推進について、いばらき県央地域連携中枢都市圏の構成市町村とともに県央地域の発展に向けた取組を推進しているところであります。市町村合併については、持続的に発展する水戸都市圏の形成に向け、機運の醸成に努めながら、取組を推進してまいります。</p>
<p>IT化により生み出される市庁舎等の空きスペースにIT産業を誘致し、働く場所を確保することにより、人口減少を食い留め、歳入増加を図るべきである。あわせてIT専門学部を高校、大学に新設し、技術者を創出し、IT産業都市を目指すべきである。</p>	<p>少子高齢化、人口減少が進む中で、経済を発展させていくためには、働く場の確保は重要なことと捉えております。御意見いただきました具体的な施策や事業につきましては、今後の事業運営の中で検討してまいります。また、デジタル化についてはまちづくりの基軸となる取組として、行政のデジタル化やまちのデジタル化を推進してまいります。</p>
<p>農地の大農場化を進めるとともに、事業団を誘致し、付加価値野菜を生産するなど、地産商品をブラッシュアップすることにより</p>	<p>本市では、担い手への農地集積・集約を進めるとともに、効率的で生産性の高い農業の実現に向けて、農業基盤の整備を進めており</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
<p>就労人口を増やし、歳入増加を図るべきである。</p>	<p>ます。また、水戸の梅ふくゆいや水戸の柔甘ねぎなど、農産物のブランド化を推進するとともに、農業経営の継承支援や新規就農者の確保・育成に努めております。御意見をいただいた具体的な施策や事業につきましては、持続的に発展する農業の実現に向けて、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>他県や空港と連携したパッケージを作り、協働で観光人口を増やし、歳入増加を図るべきである。</p>	<p>本市では、県央地域の市町村や北関東の中核都市などと連携し、広域観光の推進を図っております。特に、県央地域の9市町村で構成するいばらき県央地域観光協議会におきましては、空港や港を有する利点も生かし、県央地域の魅力を発信する観光キャンペーンをはじめ、圏域の自然、歴史、食、体験など、県央地域ならではの魅力をつないだ周遊ツアーの実施などにより、誘客と消費を図っているところであります。そのため、いただいた御意見の趣旨を踏まえ、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>
<p>水戸駅北の旧50号に青空市場を開設し、地産の新鮮野菜等を販売するなど、まちなかの商店を活性化することにより、歳入増加を図る。</p>	<p>本市では、メインストリート（国道50号）を軸とした中心市街地において、商店街団体などと連携し、水戸まちなかフェスティバルを開催してきたほか、南町自由広場を貸し出し、民間団体によりマルシェ等が開催されるなど、まちなかのにぎわいづくりに向けた取組を進めております。御意見をいただいた具体的な施策や事業につきましては、今後、個別計画の中で検討してまいります。</p>
<p>組織を用務別にし、利用者が一か所で手続きを完結できるようにし、市職員を3割減し、費用を削減すべきである。</p>	<p>本市では、社会情勢の変化や様々な行政需要に対応できるように、市民に分かりやすく、簡素で機能的な組織・機構の編成を行っております。また、平成30年の市役所新庁舎の供用開始にあわせて、市民課に転出入に関する総合窓口を設置するとともに、庁舎1階に福祉や子育てに係る窓口を配置することにより、ワンフロアでライフイベントに関連するほぼ全ての手続きが完結するワンフロア・コンプライト・サービスを実現したところであります。御意見をいただいた件につきましては、重要なものと捉えており、今後も、事務</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
	事業執行の効率性や機能性に配慮しながら見直しを行ってまいります。
人口減にあるべき市会議員数を模索するとともに、議会開催を最小限にするほか、インターネットを活用するなど、費用を削減するべきである。	議会につきましては、市の重要事項について意思決定する機関であり、議員数及び定例会の回数については、市の条例において定めております。タブレット型端末の導入に向けた取組を進めるなど、デジタル技術を活用しながら、議会機能の強化及び議会運営の効率化を図ってまいります。
全部署の備品調達の一元化や、県内市町村の備品の一括購入によりコストダウンを図るほか、委託について、他県業者を参入させることにより、費用削減を図るべきである。	本市では、発注頻度の高い事務用品等について、複数課分を集約して発注するなど、経費の節減に取り組むほか、市内業者の育成や地域経済の活性化の観点から、地元企業の受注機会の確保に努めております。引き続き、持続可能な財政基盤の確立に向け、経費の節減に取り組んでまいります。
庁舎全体を太陽光発電にするとともに、公用車の軽EV化を図るほか、市内において、100円小型バス（EV車）を運行することにより、市内への車の乗入を抑制し、費用の削減を図るべきである。	市本庁舎につきましては、太陽光発電パネルや高効率熱源機器を設置するとともに、井戸水や雨水を雑用水へ利用するなど、自然エネルギーを活用しております。 ゼロカーボン・エコシティの実現に向けて、公用車のEV化、EVバスの導入や公共交通の利用促進については重要なものと捉えており、御意見をいただいた具体的な施策や事業につきましては、今後、基本計画や個別計画の策定を進める中で検討してまいります。
広報みとの発行は月1回、二色刷りとし、年間行事は保存版で配布することで、費用の削減を図るべきである。	広報みとについては、「特集号」、「お知らせ号」の2種類を発行し、行政情報をきめ細かに発信しているところです。御意見いただきました具体的な施策や事業につきましては、デジタルでの情報発信も含め、今後の事業運営の中で検討してまいります。
健康寿命者の推移、介護施設入居者数の推移、病名の実態報告等を開示し、それに対応する健康イベントを実施し、健康寿命長寿市を目指すとともに、介護費用、健康保険費の縮減を図るべきである。	健康寿命をはじめ、介護サービスの利用状況や疾病の有病率等については、各個別計画において、現状の把握等を行い、それを踏まえ、施策を検討・立案し、事業を推進しているところです。御意見をいただいた件につきましては、具体的な施策や事業とあわせ、今

意見等の概要	市の考え方（対応）
	後、個別計画の中で検討してまいります。
市民サービスの向上を図るため、市内 100 円バスを運行すべきである。このことにより、車で行く必要もなくなり、CO ₂ 削減市のイメージアップを図ることができる。	公共交通の利用促進については、ゼロカーボンを推進するに当たっても、重要なものと捉えております。御意見いただきました具体的な施策や事業につきましては、今後の個別計画の中で検討してまいります。
住民票の受け取りはコンビニが安いのはなぜか。市民サービスの向上を図るため、同じ端末を市や支所に置き、コンビニへの手数料分を安くすべきである。	住民票の写しを発行する際などにいただいている手数料は、市が提供する人的な行政サービスの対価として徴収するものであります。また、コンビニ交付の導入に当たり、マイナンバーカードの普及率を向上させるためにコンビニ交付発行手数料を減額しております。いただいた御意見につきましては、今後の事業運営の中で検討してまいります。
野菜B級品、賞味期限ぎりぎりの品を利用するなどして、給食の無償化を実現し、市民サービスの向上を図るべきである。	学校給食費の無償化については、令和5年度から市立中学校で実施しており、今後、市立小学校への拡充を検討しております。なお、学校給食用食品につきましては、国の定める学校給食衛生管理基準に基づく適切な手続のもと、経済性にも配慮しながら、安全・安心な食品を購入するよう努めております。
水戸市は、資源ごみの売上を各自治会（町内会）へ還付しているのか。収支はどのような状況か。 衣類品は袋詰めではなくひも縛りなのはなぜか。衣類はランク分けすれば支援品になるのではないか。	本市におきましては、ごみの減量化・再資源化に向けた取組として、自治会や町内会をはじめとする協力団体による集団資源回収を促進しており、回収量に応じ、1kg 当たり 10 円の報償金を交付しております。令和4年度は、報償金約 2,250 万円を交付したところであります。また、集団資源物回収事業に係る歳入歳出としては、資源ごみの売上に係る歳入が約 680 万円であるのに対し、歳出は集団資源物収集運搬業務委託、集団資源物回収報償金等で約 1 億 3,300 万円を計上しております。 衣類品の回収につきましては、回収時に異物の混入がないか確認をしやすいように、ひもで縛った上でのごみ出しをお願いして

意見等の概要	市の考え方（対応）
	<p>おります。衣類品をはじめとする布類の資源物については、古着、工業用雑巾等に再生利用するなど、ごみの再資源化を推進しているところであります。御意見をいただきました衣類のランク分けにつきましては、資源の有効利用を行うに当たり重要なアイデアであると捉え、今後の研究課題としてまいります。</p> <p>引き続き、ごみの再資源化を通じて、循環型社会の構築を目指してまいります。</p>
<p>し尿をし尿処理場で堆肥化し販売してはどうか。水戸市はどう処理しているのか。</p>	<p>し尿等の堆肥化に係る現況といたしましては、見川クリーンセンターでの処理に伴って発生する余剰汚泥の約半分については、民間の処理施設において堆肥の原料として再利用しているところです。</p> <p>御意見をいただきました、し尿等の堆肥化については、本市が目指す循環型社会の構築に向けても重要なものと捉えており、引き続き、余剰汚泥の有効利用を推進してまいります。</p>
<p>他市と比べて、介護保険料は2万、健康保険料が3万高い。 水戸市は健康寿命短い。</p>	<p>介護保険料、国民健康保険料（税）については、国、県、市、被保険者等でそれぞれの財源内訳の割合が決められているところです。被保険者の負担軽減に向けて、国や県に要望するとともに、健康寿命の延伸に向けて、健康づくりを推進してまいります。</p>
<p>水戸市の中心部、周辺部に空き家が目立ち、また、学校と周りの地域と融合を感じられない。空き家対策、学校や周辺部の市の施設を核にした活性化を総合計画の中で検討すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を把握し、どのように再利用するのか市民と考える場を設けるべきである。 ・近隣の高齢者に協力してもらい、学校周りのパトロールをするなど、セキュリティを考えると、学校と近隣町内会が交流すべきである。 ・市の中心と周辺を結ぶ小型周回バスなどや、高齢者だけでなく、小さい子どもがいる母親などが手軽ににぎわい交流の場に行ける手段を考えるべきである。 	<p>空き家問題については、専門家団体と連携しながら、問題解決を図る相談会や、NPOと協働して行うワンストップ総合窓口の設置、また所有者意識の醸成を図るセミナーの開催等を通じて対応を進めているところであります。さらに、住宅リフォームの支援や水戸市空き家バンク制度の運営など、空き家の発生抑制、流通促進に取り組んでおります。御意見をいただいた件につきましては、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p> <p>学校運営に当たりましては、子どもたちが安全・快適に過ごせるよう、スクールガードやスクールボランティアをはじめ地域の方々に御協力いただいているところであり</p>

意見等の概要	市の考え方（対応）
	<p>ます。御意見をいただいた件につきましては、地域学校協働活動の推進により、学校と地域が更なる連携を取れるよう努めてまいります。</p> <p>交流の場への移動につきましては、利用しやすくするためのバス路線の再編や公共交通機関の利用促進に取り組むとともに、公共交通空白地区等においては、年齢にかかわらず、利用できる水都タクシーを運行し、安心して移動できる環境づくりを推進してまいります。</p>
<p>吉田神社の秋祭りなども水戸市のイベントと捉えるなら、現在、下市の一部の町内で運営している山車（7台）を水戸市全体に広げて、山車を出すようにすれば、交流の場の1つになると考える。</p>	<p>本市におきましては、年間を通して各種まつりを開催しているとともに、民間団体の主催により様々なイベントが実施され、にぎわいの創出につながっております。吉田神社の秋季祭礼などの民間団体において主催されているイベントについては、更なる充実策として、関係者への情報提供に努めてまいります。</p>
<p>水戸といえば偕楽園や黄門様、そして納豆が挙げられるが、いずれも正直古臭い枯れたイメージで、今時の若者には響かないと考える。水戸芸術館は他県の人には知られておらず、シンボルタワーのみ僅かに知名度はあるものの、ネット上では納豆タワーと言われる始末である。これらも茨城県の魅力度最下位に関わっているように思えてならない。江戸時代の遺産におんぶに抱っここの現在から脱却し、新しく洗練された水戸ならではの魅力を発掘するのが難しいことは重々承知しているが、水戸市のイメージアップにつながる新時代の水戸名物を、特に若者を中心として考え、作り上げ、未来へつなげられたい。</p>	<p>偕楽園や納豆などは、全国的にも知名度が高い本市の誇る観光資源であり、その魅力を発信してきたところであります。情報の入手手段が多様化している現代においては、ターゲットや媒体に応じた発信が重要であると考えており、本市が誇る資源の魅力を引き続き発信していくとともに、若い世代にも共感されやすいコンテンツの発掘、発信を行ってまいります。また、新たな魅力の発掘や若い世代をターゲットにした取組も重要であると考えております。そのため、いただいた御意見を踏まえ、新たな水戸ならではの魅力の創出、発掘について、今後、基本計画の策定を進める中で検討してまいります。</p>

問合せ先 市長公室 政策企画課 企画調整係
 担当 小野瀬 宮川
 電話 232-9104 内線 1031